

結露を防ぎ建物の寿命をのばす透湿防水シート。

THE スーパーエアテックスKD30

●高い透湿性を保持

高い防水性を維持しながら、透湿性能はJIS規格Bをクリア、寒冷地においても壁体内結露を起こさない透湿性能を保持しています。

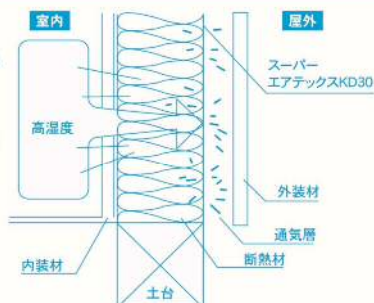
●高い施工性

切断時のカッターの通りもよく、軽量で、非常に高い施工性を保持しています

●高い防風性

外気の進入を遮断し、冷暖房効果を向上させます。

●名入れもお受け致します



■スーパーエアテックスKD30 物性規格表

性能項目	評価項目	単位	JIS A 6111:2016	
			外壁用透湿防水シートB	スーパーエアテックスKD30
透湿抵抗		m ² ·s·Pa/μg	0.13以下	0.13以下
強度	引張強さ	N	縦、横とも100以上	縦:150以上 横:100以上
	つづり針保持強さ	N	縦、横とも27以上	縦:30以上 横:27以上
	発火性	—	発火しない。	発火しない。
防水性	水圧	kPa	10以上	10以上
	水圧	kPa	8以上	8以上 ^{※2}
耐久性 ^{※1}	引張強度残存率	%	縦、横とも初期値の残存率50以上	50以上 ^{※2}
熱収縮性	収縮率	%	1.5以下	1.0以下
防風性(通過時間)		s	10以上	15以上

■加熱処理条件

記号	加熱処理条件		備考
	試験温度	試験期間	
I-1	90℃±2℃	7週間	10年相当
		17週間	30年相当
		26週間	50年相当
I-2	80℃±2℃	14週間	10年相当
		34週間	30年相当
		52週間	50年相当

※1 耐久性試験の加熱処理条件には、右表の6種類があります。

※2 加熱処理条件(I-1)での測定値です。

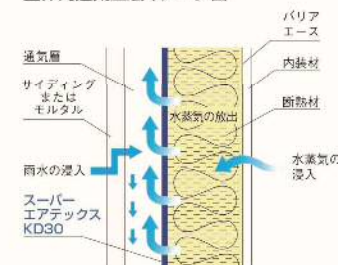
この規格は、住宅の通気層構法などの内部結露防止構造を備えた外壁において透湿、防水、防風などの為に使用する透湿防水シートについて規定したものです。

※透湿防水シートA、Bの違いについて
南北に長い日本のすべての気候に適合する規格の作成は無理があるので2種類に分けられています。Aタイプは、関東以南(日最低気温の月別平均値が10℃を下回る事が少ない地域)での使用が規定されており、Bタイプは、東北、信越地方など(-5℃でも結露しない透湿性能が必要とされている地域)での使用が想定されています。なお、北海道については、-5℃を大横に下回りますが、防湿フィルムによる防湿・気密措置がとられる場合はAタイプでも結露しないと結論づけられています。



水・冷気の浸入を遮断します
スーパーエアテックスKD30は、雨などの水分が構造材や断熱材に浸入するのを防ぎ、建物の寿命を延ばします。また、冷気の浸入を遮断するとともに室内に温かい空気の流出を防ぎ、住まいの保温性を高めます。

壁体内通気工法イメージ図



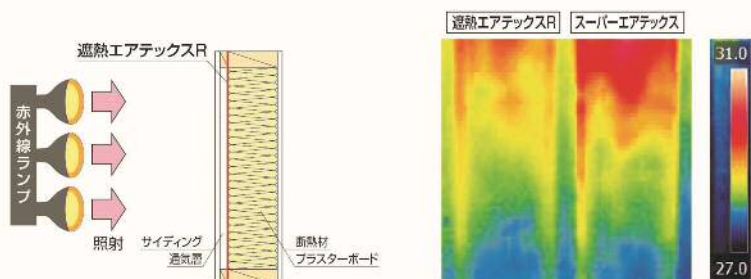
遮熱機能付き透湿防水シートで 夏季の室内への熱の侵入を大幅にカット

10年保証

<壁用>遮熱・透湿防水シート

遮熱エアテックスR (アルミ蒸着タイプ)

室内外の温度及び外気側の照射熱量に相当する条件を再現できる人工気候室に、試験体となる外壁モデルを設置。外壁側から赤外線照射して、モデルを通過する熱量の違いを測定しました。



※データ測定値であり、保証値ではありません。

■遮熱エアテックス物性表比較 ※下記数値は測定値であり、保証値ではありません。

性能項目	評価項目	単位	JIS A 6111 : 2004	遮熱エアテックスR
			透湿防水シートB	
透湿抵抗		$m^2 \cdot s \cdot Pa / \mu g$	0.13以下	0.13以下
結露防止性		—	室内側20℃・60%、外気側-5℃の条件で結露しない。	結露は認められなかった。
強度	引張強さ	N	縦、横とも100以上	縦:200以上 横:150以上
	つづり針保持強さ	N	縦、横とも27以上	縦:40以上 横:40以上
発火性		—	発火しない。	発火しない。
防水性	水圧	kPa	10以上	20以上
	水圧	kPa	8以上	8以上
耐久性	引張強度残存率	%	縦、横とも初期値の残存率50以上	50以上
熱収縮性	収縮率	%	1.5以下	1.0以下
防風性(通過時間)		s	10以上	15以上

従来の透湿・防水シートに遮熱機能を付加。
夏季の室内への熱の侵入を大幅にカットします。

- 優れた「遮熱性」：均一なアルミ層を設けることで、高い赤外線反射率を保持。
- 優れた「防水性」：多層構造であるため、強度がUP。施工中のタッカー穴に対する止水性が向上。
- 優れた「耐久性」：特殊保護層により、遮熱機能において高い耐久性を保持。



遮熱エアテックスR(アルミ蒸着タイプ)

遮熱性能を向上させ、眩しさを抑えた
遮熱エアテックスRへリニューアル。
眩しさが低減されて、
より施工しやすくなっています。



アルミ蒸着とは、高真空の中で金属を加熱蒸発させ、ベースとなる素材の上にアルミの薄膜を形成する技術です。遮熱エアテックスRは眩しさを抑える特殊フィルムの上にアルミ蒸着をすることで、眩しさを抑えつつ、均一なアルミ層を形成して高い遮熱性能を保持しています。